

歯の保存に対する歯周病のメンテナンスの効果

北村正博、村上伸也

所 属：大阪大学大学院歯学研究科 口腔分子免疫制御学講座 歯周病分子病態学

(目的)

診査診断、歯周基本治療、再評価、歯周外科処置、メンテナンスと続く現在の体系化された歯周治療により、歯周病の臨床症状の著しい改善が認められることが明らかになっている。そして、とりわけ、歯周病の病因論の観点から、歯周炎罹患歴のある場合は、歯周炎の再発予防にはメンテナンスが不可欠であると考えられている。しかしながら、実際にメンテナンスが歯周炎患者の歯周組織の健康維持に効果的であることを客観的に示す研究は少ない。そこで、本研究では、supportive periodontal therapy (SPT)によるメンテナンスを10年以上受けている患者を対象とし、歯周炎患者の歯周組織の健康維持に対するメンテナンスの効果を残存歯数の推移を指標として検討した。

(材料および方法)

大阪大学歯学部附属病院歯周病診療室で、10年以上メンテナンスを行っている患者97人(男性40名、女性57名、初診時の平均年齢46.9歳)を被験者とした。そして、被験者の初診時の残存歯2534歯を被験歯とし、再評価時、メンテナンス開始時、そしてメンテナンス開始時からは1年ごとに被験者の残存歯数を調べ、その経時的な推移を平成11年厚生労働省歯科疾患実態調査報告<sup>1)</sup>の結果と比較することにより、歯周炎患者に対するSPTによるメンテナンスの有効性について検討した。なお、被験者は、メンテナンス期間中約3ヶ月ごとの間隔で来院し、口腔衛生指導に加えスクレーピングやルートプレーニングなどのSPTを必要に応じて受けた。

(結果)

1、10年以上メンテナンスを行っている患者97人の患者1人当りの平均残存歯数は、初診時26.1本、再評価時25.4本、メンテナンス開始時23.9本、メンテナンス開始10年後21.8本であった。そして、平均13.0年間のメンテナンスを行った後、平均21.3本の歯が残存していた。また、同患者におけるメンテナンスを開始してからの喪失歯数は、一年間に平均約0.2本であった。

2、10年以上メンテナンスを受けている患者は、メンテナンス開始時には、平成11年厚生労働省歯科疾患実態調査の結果とほぼ一致した残存歯を保有していたが、メンテナンス開始平均13年後には、同実態調査で示された同年齢の残存歯よりも多くの歯を保有していた。

3、70歳以上において、平成11年歯科疾患実態調査では20本以上歯を保有している人は約20%であるが、本診療室でSPTを行っている患者では、約70%の人が20本以上の歯を保有していた。

(考察および結論)

本研究において、SPTによるメンテナンスを受けている人はSPTを受けていない人に比べて喪失歯が少なく、メンテナンスが歯の保存に非常に効果的に働いていることが示唆された。また、本研究では、SPTによるメンテナンスを長期間受けている患者では、高齢でも多数歯を保有していることが明らかとなり、ある程度歯槽骨吸収が進行した歯周炎患者でも、綿密なSPTによるメンテナンスを行うことにより、高齢まで歯を保存できる可能性があることが示唆された。

(参考文献)

- 1) 厚生労働省医政局歯科保健課：平成11年歯科疾患実態調査報告、第1版、口腔保健協会、東京、2001.